

令和3年度

第2回宝達志水町男女共同参画審議会

<日 時> 令和4年3月16日(水) 午後2時00分から

<場 所> 生涯学習センター「さくらドーム21」

2階 第1会議室

■出席者

<委 員> 北山会長、中西委員、井上委員、中村委員

<事 務 局> 坂井課長、丸山主事

1 開会

2 委員紹介

3 町長あいさつ

4 議事案件

(1) 第4次宝達志水町男女共同参画行動計画取組状況について
事務局が資料に基づき説明を行った。

(2) 男女共同参画に関する町民意識調査概要版(案)について
事務局が資料に基づき説明を行い、各委員の意見を伺った。

5 その他

6 閉会

午後3時15分 終了

(委員の意見等)

質問	<p>委員（防災や危機管理を担当する部署の女性職員の割合について）</p> <p>○3月6日の北陸中日新聞に、防災や危機管理を担当する部署の女性職員の割合について、石川県はわずか7%と掲載されていた。全国の平均は10%、富山県の平均は0%、福井県の平均は6%となっている。町の体制はどうか。</p>
回答	<p>事務局</p> <p>○本町の危機管理室の職員4名のうち今年度は全員が男性職員である。以前は女性職員が1名いた時もある。</p>
意見	<p>委員（市町村防災会議について）</p> <p>○市町村防災会議の委員をしていたが、改選にあたり、防災士の資格を所有する民生委員の女性に入るよう声をかけ、委員になってもらった。避難所の設営においては、女性の視点が必ず必要である。新しい女性委員には危機管理室に積極的に意見を出してほしいと依頼した。</p>
意見	<p>委員（防災における女性の視点の必要性について）</p> <p>○東日本大震災に関連したNHKの特集があり、女性の視点が特に必要だと強く取り上げられていた。女性の視点がないと、避難所に避難した人の状態・状況に対応できないということが統計上分かったと報じられてた。</p> <p>○自身が女性で防災士の資格を持っている。能登半島沖地震を機に、避難所における女性目線の必要性を感じたのが資格取得のきっかけである。東日本大震災の話聞く機会に、まず男性目線で避難所を設営し、その後に少しずつ女性の意見を取り入れて運営していくことが必要であると学んだ。女性目線では、避難所の仕切りが必要である。男性目線と女性目線の両方が協力しあってこそその避難所運営だと感じる。</p>
回答	<p>事務局</p> <p>○災害に関連して、第4次宝達志水町男女共同参画行動計画取組状況調査の20ページに（3）災害対策における男女共同参画の促進について記載がある。危機管理室では女性防災士を増やすよう取り組んでおり、現在、町内には、女性防災士は25名いる。避難所の運営に女性の意見を反映していきたい。危機管理室にも委員の皆さんの意見を伝えておく。</p>
意見	<p>委員（男女共同参画の意識改革について）</p> <p>○意識を変えないことには何も変わらない。年齢が低いうちに、心が柔らかいうちに、幼児、小学校、中学校、高校での教育における意識改革がなければなかなか変わらないのではないか。</p> <p>○男女共同参画の意識は少しずつ変わってきているが、まだ先は長い。自身の親世代である高齢者の世代は、「男は男、女は女」という意識が根強くあり、その親に育てられた子どもの年代もその意識が抜けきらない所があり、言葉にも表れてしまう。今の子ども時代から変わっていけば、その子どもが社会人になって、子どもを持つ頃には意識が変わっていくと思う。ゆっくり時間をかけてやっていくしかない。</p>

回答	<p>事務局</p> <p>○取組状況の22ページの②若年層への予防啓発の促進に関連するが、学校教育課にも性差別等も含めた予防啓発について伝えていきたい。また、生涯学習課においても、DV防止についてできるだけ情報発信していきたい。</p> <p>○行動計画を策定し、町として取り組んでおり、職員の意識も少しずつ変わってきている。令和2年度に委員から、女性委員の登用を積極的に推進してほしいという意見が出たので、令和3年度の4月には、生涯学習課長から課長会議で改選のある審議会等における積極的な女性委員の登用を依頼した。令和4年度の4月にも声をかける予定である。課によっては、取組状況が例年どおりのところもあるが、少しでも改善していけるように努めたい。</p>
意見	<p>委員（町の審議会における女性登用について）</p> <p>○役場から、各団体の委員推薦の声かけをする時には、各団体の状況を知っておく必要がある。民生委員は女性委員が多いが、会長や副会長は女性のなり手がおらず、男性ばかりが務めている。女性の役割を増やしていかないと、大きく変わらない。</p>
回答	<p>事務局</p> <p>○町の審議会登用女性委員の目標は37.0%を目指している。第4次行動計画では第3次行動計画よりも少し割合を高く設定した。国の目標は40～60%であり、大体平均を目指している。各団体に委員の推薦依頼する場合、男性しかいない団体もあるが、公募委員も含め積極的に女性委員にお願いしたいと思っている。</p>
意見	<p>委員（男女共同参画に関する町民意識調査概要版について）</p> <p>○1ページのI調査の概要2調査の項目にページ数を入れると、興味を持って見たいところを見つけやすくなる。</p> <p>○1ページのII調査結果の概要の(2)に「男は仕事、女は家庭」という考え方に対して、女性も男性も『賛成しない(計)』が『賛成である(計)』を上回っていると書かれている。5ページに具体的な数値が載せてあり、男女共同参画の意識があることが読み取れる。しかし、4ページの■家庭における役割の結果から妻の役割が多いことが分かり、意識と役割の実情にギャップがあることが分かる。5ページに意識と現実とは異なっているという説明を追加で記載したらどうか。</p> <p>○1ページのII調査結果の概要の(1)に「男女の地位の平等感は「学校教育の場」「家庭の中」で高く、～」と記載されているが、2ページの調査結果の数値を見ると、(a)家庭の中での平等感は40.0%となっているため、「高い」とは言えない。1ページの(1)の割合が高いものとしての記載は省いた方がよいのではないか。</p> <p>○1ページII調査結果の概要の(3)には、女性が管理職に昇進することについて、全体の8割近くが『賛成である(計)』となっているが、令和3年度の町の審議会登用女性委員の数値調査における全体の女性委員の割合は昨年度より1.9%のみの改善であり、ここでも意識と現実の間にギャップが見られる。</p> <p>○5ページの■「男は仕事、女は家庭」という考え方を4ページの初めに配置し、男女平等の意識はあるが、■家庭における役割では実際の家庭では妻の役割が大きく、■子どもの教育方針についてはこうなっていると紹介すれば、意識と現実のギャップがより見やすくなるのではないかと。</p> <p>○5ページの■子どもの教育方針では、親は男の子も女の子も一番は「思いやりがある子」となっているが、その後は全く違っている。男の子には責任感、活発で行動力がある、自立心が旺盛であることを期待している。女の子には、気配りが</p>

	<p>できる、誰にでも好かれる、家事能力があることが期待されている。子どもを育てる大人の意識が変わっていないことが分かる。家事能力については男の子においては一番低くなっており、家事能力は求められていない。リーダーシップが女の子に求めるもので一番最下位となっている。女の子には委員になるということが期待されていないということになる。</p>
回答	<p>事務局</p> <p>○意識と現実の間にギャップがあるということも説明に追加したい。調査の概要の部分には大まかな傾向を記載し、その後の具体的な内容の部分において、細かい部分ではギャップが見られるなどの詳細について記載する方向で検討したい。</p>
意見	<p>委員（男女共同参画の意識の啓発について）</p> <p>○トモサン会（県男女共同参画推進員）では家庭の中の役割分担について紙芝居で小学生に啓発活動をしている。その中で一番大切にしているのが思いやりや協力である。その大切さに気づくには、学校の先生や社会の皆さんの力が必要である。社会全体で子どもたちを大切にすることが大事である。現代の子どもたちは、とてもかわいがられて育てられる子どももいれば、そうでないかわいそうな子どももいる。両極端にならないようにしていければいいと感じるが、どんな風にしていけばよいのだろうか。</p> <p>○年齢層の高い人に対して意識を変えていくのは難しいが、小中学校の教育において、「男は仕事、女は家庭」という考え方について、そうではないということを指導していくべきである。</p> <p>○男女共同参画社会の推進には、男女の相互の協力が必要であるという意見が、関連するどの調査項目においても一番多い数値を占めている。町民の皆さんはきちんと理解している。今後は、町の広報のアピール方法の改善が求められるのではないか。</p>
回答	<p>事務局</p> <p>○学校だけで、子どもたちみんなが同じように育つようにするのは難しい。保護者の意見もあるだろう。同じ目線で育てることは理想的であるが、なかなか育て方を統一するのは難しいと思われる。</p> <p>○5ページの■「男は仕事、女は家庭」という考え方に関する調査結果は、年代別に調査結果が異なる部分もあるので、そちらも載せるかを検討したい。SDGsのゴールの中で、国はジェンダー平等を謳っており、学校でも盛んにSDGsを取り入れた教育を行っている。小さい子どもに対する啓発についても取り組んでいきたい。</p>
意見	<p>委員（男女共同参画に関する事業の周知度について）</p> <p>○概要版の20ページの調査結果を見ると、「まったく知らない」が極端に多いのが気になる。広報での周知等を進め、町民の皆さんに事業について知ってもらうことが大切である。</p>
回答	<p>事務局</p> <p>○町と県の共同の取り組みとして、毎年「ふらっとミニセミナー」を11月下旬に開催しており、広報やケーブルテレビ等で周知し、募集している。コロナ禍で制限もあるが、令和3年度も40名ほどが参加し、参加者の反応も良かった。今後も引き続き啓発を続けていきたい。</p>

意見	<p>委員（男女共同参画に関する町民意識調査概要版の周知方法について）</p> <ul style="list-style-type: none"> ○広報で概要版について周知してもよいのではないか。また、図書館とタイアップした啓発を企画し、親子で概要版に触れる機会とするのはどうか。子どもが手に取れば、母親も一緒に見るかも知れない。町民の皆さんに概要版を見ていただいたり、参加してもらったりすることが大事なので、手にしてもらおう工夫が必要である。 ○表紙の色を変えることは可能か。このままだと手に取ってもらいにくい。パープルなど目立つ色で印刷し、手に取ってもらえるようにしたらどうか。かわいいキャラクターを載せて目立つようにすることもできる。皆さんに知ってもらうことが大切である。 ○題名が堅苦しい。キャッチフレーズとして「みんなが仲良く生きる町」などをつけ、その下にサブタイトルとして、概要版（案）のタイトルを載せたらどうか。 ○キャッチフレーズとして、最近よく耳にするジェンダーという言葉はどうか。キャラクターの使用については、そのキャラクター自体に目がいてしまう可能性もあるため、町のマスコットであるほっぴーさんのままでよいのではないか。
回答	<p>事務局</p> <ul style="list-style-type: none"> ○町民意識調査の概要版については、委員の皆さんからの意見を元に修正し、会長にも確認してもらおう。準備ができ次第、町のホームページにも掲載させていただく。

